



定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書

令和元年 8 月 30 日

犬山市議会議長
中 村 貴 文 殿

請 願 者





尾北地区教職員組合 執行委員長





他 297 名 (犬山市立小中学校在勤教職員)

紹介議員

玉置幸哉 

吉田鏡夫 

水野正光 

鈴木伸太郎 



定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書

令和元年 月 日



犬山市議会議長 中村 貴文 殿

請願者

尾北地区教職員組合 執行委員長

請願趣旨

貴職におかれましては、日々、教育の発展にご尽力いただき、深く敬意を表します。

さて、未来を担う子どもたちが夢や希望をもち、健やかに成長していくことは、すべての国民の切なる願いです。しかし、学校現場では子どもたちの健全育成にむけて真摯に取り組んでいるものの、いじめや不登校など子どもたちをとりまく教育課題は依然として解決されていません。また、特別な支援や日本語教育を必要とする子どもも多く、一人ひとりに応じた適切な支援を行うための十分な時間が確保できないなどの課題にも直面しています。さらに、新学習指導要領の移行期間となり、小学校での外国語教育については、学習内容や授業時数の増加により、子どもたちや学校現場の負担となっています。そのようななか政府予算において、新学習指導要領の円滑な実施にむけ小学校専科指導の充実などのために、一・二・〇人の加配措置による教職員定数改善が盛り込まれたものの、少人数学級の推進や教職員定数改善計画は示されておらず子どもたちの健やかな成長を支えるための施策としては、たいへん不満の残るものとなりました。少人数学級は、保護者・県民から一人ひとりの子どもにきめ細かな対応ができるという声が多く聞かれます。山積する課題に対応し、すべての子どもたちにゆきとどいた教育を行うためにも、少人数学級のさらなる拡充を含めた定数改善計画の早期策定・実施が不可欠です。

また、子どもたちが全国どこに住んでいても、機会均等に一定水準の教育を受けられることは憲法上の要請です。しかし、三位一体改革により、義務教育費国庫負担制度の国庫負担率は、二分の一から三分の一に引き下げられたままであり、自治体の財政は圧迫されています。教育の機会均等と水準確保のために、義務教育費国庫負担制度の堅持とともに、国庫負担率を二分の一へ復元することは、国が果たさなければならぬ大きな責任の一つです。

つきましては、定数改善計画の早期策定・実施と、義務教育費国庫負担制度の堅持とともに、国庫負担率二分の一への復元にむけて、内閣総理大臣、内閣官房長官、文部科学大臣、財務大臣、総務大臣に対し、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出されるよう左記の事項についてお願いいたします。

請願事項

一、少人数学級のさらなる拡充を含めた定数改善計画を早期に策定し、実施すること。

二、義務教育費国庫負担制度の堅持とともに、国庫負担率を二分の一へ復元すること。

住 所	氏 名	印